

令和5年2月
第439号



新春「書き初め」展



1/5

新春『書き初め』

気を引き締め、それぞれ今年の
抱負を書きました。

おもな内容

- ・祝成人 …p1
- ・岐阜県消防協会長表彰 他 …p2
- ・民生委員・主任児童委員 …p3
- ・公民館講座新春「書き初め」 …p4
- ・おもかげのうつろひ …p5～6
- ・モニタリング調査 5年間 …p7～9

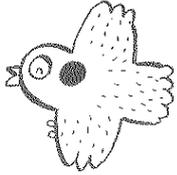
祝 成人

成人を迎えて

棚橋 龍二郎

今回成人を迎えるにあたって、『瑞浪市二十歳の祝典』実行委員をやる事になり、普通の人はただ参加するだけの祝典の裏で数ヶ月もの間準備や練習をして本番に臨みました。

この経験を通してどんなイベントにおいても見えない所で影ながら支えている人がいるという事が分かり、これから社会に出ていっても、人が見ていない所でも、自分のやるべき事を全力でやる事を目標に生きていきたいと思いました。



成人を迎えて

足立 理桜

足立家の長女として生まれて二十年、喜びも苦しみもいろいろ経験しました。どんな時も心の支えとなってくれた両親や祖父母、地域の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

まだまだ大人としての実感はあまりありませんが、二十歳になって、父とお



酒の銘柄や味について話ができるようになりました。私もお酒は強いほうかも・・・
家事や祖父について農業の手伝いなどをして過ごす日々ですが、今後自分が進む道については悩みながら考えていきます。



岐阜県消防協会長表彰

勤労賞（20年勤続）

第3分団 団員 安田 清和

勤労賞（15年勤続）

第3分団 班長 小栗 康彦

瑞浪市長表彰

功労省（8年勤続）

第3分団 団員 安藤 雅人

団員 松浦 貴秀

団員 瀬瀬 博紀

瑞浪市消防協会長表彰

功労賞（5年勤続）

第3分団 団員 秋山 佳吾

消防団長表彰

功労賞（3年勤続）

第3分団 団員 三戸 啓介

団員 加藤 元

おめでとうございます。

いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

十二月から新たにスタートしました

民生委員・主任児童委員

大竹 悦子

全国的にも、過去最多の定員不足でスタートした、民生委員、釜戸町は全員改選で新委員の為、釜大の会長を力不足の私が引き受けることになりました。

役職は、それだけではありません。市の副会長をも輪番制で回ってききました。断りはできません。こんなはずではなかったのにも思いましたが、新しい人の出会いに感謝し新しい活動を正受しながら、右往左往の二か月を過ごしました。

まだまだ「すいません。ご免なさい。お願いします。」の連続ですが、委員の方々の「みんなでやればいい。」との温かい後押しのおかげで、地に半分足が着いた気がしています。

小さい私の身の丈に合った活動になります。ご支援ください。

大湫町の民生委員・主任児童委員紹介

足又区 奥村 めぐみ

神田区 三浦 早苗

西・北区 大竹 悦子

主任児童委員 小栗 保里恵

お世話になります。

よろしく願います。



転入のご挨拶

北区白山組

昨年12月末、名古屋から大湫に越して参りました片岡です。

仕事場である木工所を瑞浪に移すこととなり住まいを探していましたところ、友人を通じこの大湫にたどり着きました。

美しく、笑顔の行き交う町に心地よい印象をうけたのは春のこと。それから、多くの町の方々、コミュニティ、転入対

策委員会の皆様にお世話になり、無事移り住むことができました。

お借りしている住まいは改修途中。倉庫と車を止めさせて頂く土地も順々に手を入れながら暮らしていこうと思います。

夫婦2人と犬(ケン)右往左往しておりましたら、お声をかけていただけると幸いです。

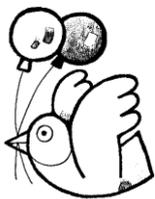
これからどうぞよろしく願います。

人のあたたかさ、寒くとも陽の当たる町。次はどこを歩いてみようかと日々愉しみます。

片岡 紀仁

亜希
ケン

よろしく願います



1/5 公民館講座
新春『書き初め』

新春『書き初め』を行いました。子供から高齢者までたくさんの方に参加していただきました。

小学生は4年生から習字の時間がはじまります。小さな子は初めて筆を持ち習字をする子もいましたが、楽しそうに何枚も書いていました。

高齢者の方も久しぶりに筆を持ったと言いつつ、いながらも楽しそうです。

最後に清書してもらいロビーに展示してあります。(2月1日までの展示)

久しぶりに高齢者と子どもとのふれあいが出来たいい日となりました。(事務局)

新春 初顔合わせ『書き初め』

“びよも”スタッフ一同

お天とうさまのお蔭で、雪も解け始めた五日、「久しぶりやね。」「初めました。」すでに筆を持ち書き始めている子、会事態はどこへやら。

老いも若きも和気あいあい、心の底から心ませた『書き初め』会。

さてと、肝心の書き初めは、と言いますと、講師の方の手ほどきを受けながら書いては紙を替え、替えては書きの繰り返し。一心不乱集中のみ、根を詰めることは、このことでしょう。

水を打ったような静けさの中での新春に相応しい『書き初め』楽しい一時でした。

作品は、公民館のロビーに展示。それぞれが新しい年への希望と期待が伝わる作品。作品は卯年の兎のごとく飛び跳ねていました。

この会で、初めて筆を持ったお子もいましたがものおじすることなく、お手本の漢字を身体全体で受け止め書き続ける姿に勇気をいただきました。ありがとうございます。



思いがこもっている書き初めでいい作品展になりました。

北海道の大地はすっかり雪で覆われ、自然の土や植物に触れる機会がめっきりなくなりました。先月に引き続き、今回は私と大湫との関わりを綴らせていただきます。

英国での生活を終え、日本へ帰国して数ヶ月が経った頃、御神木のことが心に浮かび、日本各地の巨樹について調べていました。諏訪地方へフィールドワークに出向いたり、その信仰の起源に近づきたいと様々な文献を調べていました。リサーチを縦横に広げる過程で、巨樹が倒れたという記事に目がとまり、しかも、ほんの数ヶ月前の出来事であるということを知り、何か強くひきつけられるような感覚があったことを覚えています。

2020年の秋、実際にその現状を見ようと思いつき、初めて大湫へと出向きます。釜戸駅で下車し、麓の神社にある大きな岩に触れ、紅葉がきれいな山道を登りました。中山道かえで街道の脇を流れる小川の音を聴きながら、祀られてはいないけれども太古からそこにあったであろういくつかの巨石を眺めたり、傾斜で足が疲れて立ち止まったり、現代の移動手段が日常になる以前の宿場町大湫への道のりを少しでも経験しようと歩を進めました。

傾斜がゆるやかになり視界が開けると、稲が輝く田園風景の中に集落が見え、宿場のおもかげを残した民家が並ぶ細い道を進み、横たわる大湫大杉が徐々に目に入ってきます。実際に対峙するとその有り様に圧倒されました。それと同時に、その上に立って何かをしている人に気がつきます。少しして降りてきてお話をさせていただくと、彫刻家の天野さんという方で、僕がここに来た経緯などを真摯に聞いてくださりました。その後、丸森施設長の向井さんを紹介してもらい、当時大湫コミュニティセンター館長であった渡邊さんに取り次いでくださりました。コミュニティセンターの椅子に座りながら、私が何をしたいのか、大湫の状況、渡邊さんご自身や歴史家であったお父さんのことなど、じっくりと対話させていただきました。その頃にはもう日が暮れていて、野生の感覚が研ぎ澄まされる暗闇を歩いて下り、釜戸駅から帰路につきました。

北海道へ戻り、大杉の状況をデジタルアーカイブするために渡邊さんとやりとりを続けました。当時は、大杉を今後どのように扱っていくのかも決まっていなかった時期で、さらに、緊急事態宣言がでることが少しずつ感じられるような状況でもありました。ワクチンがまだ出回っていない頃だったこともあり、地域の方々との接触を極力避け、2020年12月17日に3Dスキャナー等で横たわる大杉の記録を行いました。雪が降り積もるその日、横たわる大杉が白衣で覆われていたようにも見えました。記録作業の1つ1つが過ぎ去るごとに、すべてが〈過去〉になっていき、同じ空間に在るのに永遠に触れることができなくなるような、葬る儀式にも似た心持が私自身に刻まれました。

日も暮れ始め、最後の記録作業として許可を得て、大杉に登らせてもらいました。背丈よりも高い幹によじ登って立ち上がったその瞬間、一瞬の体験ではありながらも、やわらかなものを抱擁しながら包み込まれたような感覚と、直立する壁に足が張り付いて天地がわからなくなるような形容しがたい不思議な体験がありました。その一瞬は私にとって最も鮮烈な大杉との記憶として残っています。皆様それぞれにも忘れがたい大杉との記憶があるかと思います。

遠方からではありますが、学術研究の発表や再建計画についてなど、定期的に広報大湫等を通して皆様の強い結束による前進を拝見していました。しばらくして、2022年10月に秋の例大祭が行われることを知り、新たな大杉の姿を眺めるべく、約2年ぶりの大湫再訪に至りました。不思議と、帰ってきたような感覚があり、再建された神明神社と大杉をやっと肌身で感じることができました。表皮に太陽が反射し、銀色に輝く大杉は、とても厳かな佇まいでした。

その時に使用用途の決まっていない大杉の断片があることを知り、芸術の分野からそれらを用いて何かできないかを、北海道へ帰ってからもしばらく考えていました。データとしての価値や、因果の検証を学術的に明らかにすることの重要性と同時に、地域における大杉の在り方や、〈木〉を神聖視する文化について再考する必要性を感じていました。玉置さんが大切に保管していた大杉の断片を譲ってくださったおかげで、北海道でも手元でその木に触れ続けることができました。ぼんやりとイメージができた頃に、現コミュニティセンター館長の足立さんとやりとりを重ね、使わせていただく大杉の残片を選定するため、2022年12月に再度大湫を訪れました。

それまでは名古屋や瑞浪に宿泊していたのですが、旧西森邸に初めて泊まらせていただけることになり、大湫で数日を過ごしました。様々なお心遣いをしてくださった棚橋和代さんに鍵をお返ししに行った時、玄関で腰掛け、アルバムをみながら昔の大湫についてなどのお話を聞かせていただきました。子供の頃に記念写真を撮る時はなぜか大杉の前でよく撮っていたというお話は、いかに地域の方々の心深くに大杉が根ざしているかを示しているように思えました。

山道に入っていったところに保管されている大杉の残片を加藤さん・三戸さん・田村さんが案内して下さり、大杉を切っていた時のことや、断片がどの部位だったかなどを教えてくださいました。長年大杉の処置をなさってきた樹木医でもある三戸さんをはじめ、皆さんが「カルスが巻く」という私にとっては聞きなれない言葉を使っていて、かさぶたのように傷や壊死した部位などを樹皮が覆い、外側の部位を内側へと取り込んでいくその働きにとっても心がひかれました。木がある場所で環境の影響を受けながら、樹皮が年輪を形成し、大湫大杉の学術研究でもそうであったようにそれらが〈時〉を伝えてくれることを考えると、木は空間の中で環境に包まれながらも、年輪として環境の時間を包み込んでいるように思えます。江戸時代に起きた大湫での火事の痕跡と思われる箇所など、大杉が保持している時間性や、流れる形成作用から感じられる生命性は、活用させていただく残片を選定する上で大きな指針となりました。田村さんには工具や運搬する車など、滞在中のあらゆる面で大変お世話になりました。足立さん、加藤さんのお取り計らいによりお茶工場跡で梱包させていただき、無事に運送を終え、現在北海道で大杉の残片を用いた作品を制作しています。

2020年当初、風土に根ざした信仰対象が現代の技術によりアーカイブされ、複製されることでうつろうそのおもかげを主題に大湫大杉との関わりが始まりましたが、大湫の皆様との関わりや実際の大杉の残片と触れ合うことで、植物である〈木〉をどのように見るかについてより考えるようになりました。それは現代を生きる私たちが〈木〉という生命体をどのように眼差すかという普遍的で両義的な問いに直結しています。対象へのまなざしは、対象が私たちとどのような関係性を結ぶのかを逆に定めてくる契機でもあるかと思えます。

現代において、私たちは科学的な見地と、慣習的な見地のあいだを行き来しながら物事をみているように思えます。天野さんのご自宅で奥様が作って下さった鍋を食べながらお話をしている時、神明神社再建に大いに貢献された棚橋哲夫さんが「大杉が倒れたことによって、どうにかしなければというそれまでになかった強い気持ちが生まれ、自分の中にあるものが信仰であることに気づかされた」という旨のお話をしていたことがとても印象深く心に残っています。時を経て流れ着いた様々な実践は日常の中で生まれ、私たちは数知れぬ多くの場面でそれらにすでに出会っていることと思えます。信仰と科学と技術のはざままで、私たちはどのようにその木をまなざすべきでしょうか？

最後に、私のようなどこから現れたかもわからない人間に対して、ご親切にしてくださった大湫の皆様は心より感謝を申し上げます。宿場のおもかげが強く残る大湫の風土に触れる喜びから、そこに生きる方々とも関わりを持たせていただけるようになったことが、とても嬉しいです。遠方からではありませんが、これからもこの広報大湫等を通して大湫の〈今〉に心を通わせながら、また訪れることができる日を楽しみにしています。

このたびは本当にお世話になりました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

展示情報 第16回 shiseido art egg : 佐藤壮馬展

2023年04月18日(火) - 05月21日(日)

会場：資生堂ギャラリー

東京都中央区銀座8-8-3 東京銀座資生堂ビル地下1階

火～土 11:00～19:00 日・祝 11:00～18:00

毎週月曜休(月曜日が祝祭日にあたる場合も休館) 入場無料

<https://gallery.shiseido.com/jp/exhibition/5655/>

モニタリング調査 5年間

文責 長谷川 明

「国破れて山河あり」。人が体験できる時間（スペイン）で山や川が変わることは、まずない。まさに悠久の自然だ。冒頭の漢詩は人間の愚かさを嘆く。戦乱と軍備の拡充に奔走する「国」が絶えない今、再考を迫られているように思う。

連綿と姿を留める自然。だが、山塊もその姿を変え、河川も流れを変える。こうした自然の脅威は誰もが知る。生き物も自然の一部。短いスペインでも変貌する。この変遷を掴もうと環境省が取り組んでいる。「モニタリング1000」だ。およそ1000カ所を日本各地に定めて、長期にわたり生き物を監視（モニタリング）する事業。2003（平成15）年から始まり、2022年で20年となる。大湫町自然保全委員会（以下「委員会」）がこのモニタリング事業の第4期に参加した。第4期目の2018年から5年間。

委員会が監視する区域（モニタリングサイト）で、環境に小さな変化があった。樹木の伐採だ。これにより周辺がかなり明る

くなった。豊かな光が地表まで届く。

いずれの伐採も面積はさほど広くはないが、方法に違いがあった。間引き的なやり方と全ての樹木を伐採する皆伐だ。

作業後、後者の区域ではダンドボロギク・ベニバナボロギクが優勢種となった。秋になるとその綿毛が周辺を舞った。何時、どこからこの種（タネ）が飛んできていたのだろうか。先駆植物（パイオニアプランツ）として一斉に育っていた。これから先、人の手が加わらなければ、この区域の植物（植生）がどう変わっていくのかが見られるかもしれない。

人の手が加わって変化が抑制されているのが里山。人間の営みが環境を保持し保全する。水田はその極致だ。数千年続いても耕作が可能。それを実現したのは先人が営々と築いた灌漑施設と言えよう。



名は体を表す

モニタリング調査の一行は、宗昌寺（大湫町にある禅宗の寺）駐車場に集まり、毎回決められたコースを歩く。雨が降っても、警報が出ない限り、植物調査はおこなわれた。各回の参加者は10名前後。数だけで言えば「文殊」を上回る。だから「知恵袋」の集団と言えなくもない（「烏合の衆」との声も聞こえるが）。

調査員のひとりがある植物の地方名（別名）を紹介した。「これは『婿泣かせ』という」。ヤブカラシだ。よく茂り、名前のように他の植物を枯らしてしまうほど生育が盛ん。それだけに駆除はやかいかい。「婿泣かせ」とは、旺盛に繁茂し駆除作業が大変で、婿殿が泣きたくなるようなことからの命名のようだ。

「婿泣かせ」を調べてみた。食用ともなるキバナアキギリも、そう言うようだ。魚にも「婿泣かせ」と呼ばれるものがある。タカノハダイ。「男泣かせ」と呼んでいる地域もある。いずれも難儀なもの、やかいなものに婿（男性）が泣かされる。嫁だけでなく婿も泣かされるのが人間臭くていい。

今風に言えばジェンダー平等だ。

名前はあっても地域ごとに異なっているのは混乱を招く。生活に密着した植物ほど色々な呼び名がある。

新しいものを見つけた発見者には名前を付ける権利（命名権）が与えられる。植物の世界では新種発見は望み薄だからまず無理。日本だけに生育する固有種といえども、人の往来が盛んになるとともに植物も国を越えて行く。ヒトの出現以前に遡れば、日本列島も大陸と陸続きだった。大陸と日本に同じ植物が生育していても不思議ではない。科学も国境を越えて発展している。だから同じものを別の名前と呼んでいては混乱を招く。そこで世界共通の命名法、学名が誕生した。

ママコノシリヌグイ（継子の尻拭い）。れつきとした正式な名前（標準和名）だが、棘だらけのこの植物でお尻を拭かれたらさぞかし痛かろう。

棘のある植物を用いればあのヌルヌルのウナギでも容易につかめるだろう。つけられた名前が「アキノウナギツカミ」。言い得て妙だ。

ハエドクソウは蠅毒草と表されるよう

に、有毒でこの植物を煮詰めて「蠅取り紙」を作ったことからの命名のようだ。

ものは試し

モニタリングコースにあつた大きなキイチゴが目飛び込んだ。それは橙色のコジキイチゴ。林縁の日当たりのよいところにあることからよく目立った。キイチゴより格段に大きく、美味しそうだ。食べてみた。甘みは淡泊だが、大きさにつられてつい口にしたが、袋状になっていてさほどの食べ応えはない。なによりも今イチ美味くない。コジキから乞食が想起される。調べてみた、「袋状の

形から甑（こしき）が連想され、『こしき』→『こじき』と変化した」という説が紹介されていた。タンポポもあの綿毛状態を綿球に見立て、「たんぽ」。それ



コジキイチゴ

が訛つてタンポポとなったという説がある。言葉は生きている。圧倒的な人が同じ使い方をすればそれが正しい。だから前述の学名はどここの地域の人も使わなくなった、いわば死語のラテン語が用いられる。

「委員会」のモニタリング調査は「草（草本）」を調べる。だから、調査により植物名を確定（同定）しなければならない。

調べているだけでは面白くない。雑談が飛び交う。時には食べてみる。その場で食べられるものには目が速い。スノキ、ウスノキは草ではなく木（木本）。調査の対象外。だがこれらの実は甘酸っぱく、懐かしく、美味しい。「子どもの頃食べた」と誰かが言った。

へイイチゴやヤブへイイチゴは、その名前から食べるには、ちよつと勇気が要る。食べようとすると人は多くはないだろう。真っ赤で艶があつて美味しそう。食べてみた。だが、味も素っ気もないとはこのことか、と思わせるほど不味い。「食べてみたら」と誘うと、調査員の中に手を出す人が現れた。好奇心の旺盛な人はどこにでもいる。

シオデは山のアスパラガス。調査地にも自生する。「これはシオデ。山のアスパラガ

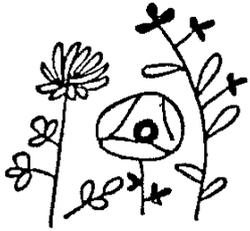
スと言われるよ」。だが、そのままでは食べられないから「ふうーん」で終わってしまふ。現金なものだ。

自然観察で生物多様性を学ぶ

五感を使うことは記憶に残る。触ってみる、臭いをかいでみる、拡大鏡を使って見る、などは観察の基本だ。もちろん口に入れてみるのもよい。むやみやたらに口に入れることは慎まなければならないが。

こんな「自然観察（モニタリング）」に2023年3月から再び「委員会」は取り組む。

環境省の事業は百年が目標なのだからまだまだ先は長い。モニタリングを通して自然に学ぶ楽しさと多様な生き物が住む自然（生物多様性）を一人でも多くの人と共有したいと思う。



この花って 何かな？

写真展

モニタリング調査

5年間から



「モニタリングサイト1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）」に環境省が取り組む。

2003年から取り組まれる100年の事業。5年間の1期、4期目に「自然保全委員会」が取り組みました。

5年間の取り組みの一部を紹介する。

開催日：2023年2月7日(火)～28日(火)

9:00～16:00

会場：大湫公民館(講堂) 土・日・祝 閉館

主催：大湫自然保全委員会

後援：瑞浪市環境課

12/25 公民館講座「蕎麦打ち教室」

今年は蕎麦打ちの道具を公民館で揃えました。

今回の「蕎麦打ち教室」は前回の教室に出て、とても美味しかったから今年も出ますと、2度目の受講の方が多かったです。今回もおいしく出来ました。



さすが先生は手際がいいです！

大晦日の風景



除夜の鐘撞きの行列です。

年越しそば作り



年越しそばご馳走様でした。



てくて企画
**12/24 「クリスマスケーキを
 ホールで作ろう」**

4年 A・T

クリスマスケーキ作りにさんかすると聞いてすこしふあんになりました。

私は集まってお菓子を作るといことがなかったからです。

でも、お菓子作りの先生はゆっくりいねいで時間を気にせずできたので、ひとつの作業に集中してケーキ作りができました。

デコレーションもかわいく、味も美味しいクリスマスケーキができてとても満足。素敵なクリスマスをすごせました。

1年 O・Y

たのしかったよ。フルーツきってかざれたのしいよ。

またやりたいです。



飾り付け、一生懸命がんばってます。



すごい！豪華で美味しそうです。

1年 A・M
 わたしはケーキをつくったとき、なまくりむをのせるとき、じょうずにのせれなくて、でも、せんせいにてつだってもらったのしかったです。
 またやりたいです。



作った作品の焼成は、春に野菜焼きで行います。楽しみです。

てくて企画
11/26 「粘土で作品作り」

丸森だより

令和5年1月22日

1月、2月丸森企画

●丸森特別展示Ⅲ『大湫宿に伝わったやきもの』【10/1～1/31】

*大湫宿で用いられたおもてなしの器。瑞浪市陶磁資料館のコレクションより、西森、米屋などに伝わった九谷、伊万里(有田)、さらにはオランダ渡りの大皿などを展示。

●『新春を寿ぐ～丸森の餅花～』【12/3～1/15】 *恒例の丸森餅花を展示販売。

●丸森特別展示Ⅳ『描かれた大湫宿』

【2/4～3/31】

*中山道大湫宿が栄えていたころ、街道を行きかう人々のために、多くのイラスト入りのガイドブックが刊行されました。また、多くの文化人も旅日記をのこしました。「木曾路名所図会」(秋里離島)など、そこに描かれた当時の大湫宿と、現在の姿を紹介します。

さらに、安藤広重の「木曾街道六十九次」の47番。「大久手」も他に類を見ないユニークな構図です。



●『丸森 ひな祭りフェア』【2/4～4/3】

*江戸時代中期に始まった享保雛、後期の古今雛など、大湫宿に伝わった古い雛人形を展示します。さらには明治以降、市原をはじめ、瑞浪市内で盛んに生産された土雛、土人形は庶民の雛飾りとしてなじみ深いものでした。加えて、華やかな吊るし雛、昭和30年代に全盛を極めた御殿飾りの雛人形を展示します。

●大杉の円空彫りオーナメント、ストラップ。寄付返礼品の展示頒布。

*「岐阜円空彫り同好会」「遠江円空研究会」による大杉部材を使った円空様式の小物です。

1月 大湫宿の行事・出来事、丸森と来宿者

- *4日 大湫コミュニティセンター・公民館、仕事始め。
- *5日 中山道大湫宿 丸森、仕事始め。
- *8日 神田、足又、どんど焼き。
- *15日 西、北、どんど焼き。
- *22日 大湫グランドをホームとし、東濃地方の中学生を中心に結成された硬式野球チーム「岐阜東濃ボーイズ」。大湫公民館にて総会



HP



Instagra

2023.1.22..現在

町 外		町 内		合 計	その内 (外国関係)
大人	幼小中高	大人	幼小中高		
136	-	49	3	188	2
R4,4月～	6,030	オープンから	46,642	R1 同月比	62.3%

- 現在、【大湫町コミュニティ推進協議会 ホームページ】【大湫宿丸森 Instagram、Facebook】が開設されております。上の QR コードから、ぜひフォローして下さい。

1/8神田区・足又区 1/15西・北区 どんど焼き

1月15日、昨日までの雨が上がり、暖かさを感じる中、西・北区のどんど焼きが行われました。

準備は先週に行い、当日9時30分に小学校2年生のH・Sさんが点火して始まりました。

熾火が出来ると、各家庭ごとに持参した餅等いろいろなものを焼き、無病息災を祈りました。



どの方向に倒れるかな？竹が倒れたのは・・・西



豪華！餅・ねぎま・焼きおにぎり・ウインナー
ソーセージ・今川焼・ジャガイモもあります。
おいしそう！



図書館の子供の遊び場がきれいになりました。来てください。



古く傷んでいた畳を、きれいなマットに変え、整理をして広くなりました。

図書館の皆様ありがとうございました。

大湫公民館・大湫町コミュニティ推進協議会からのお知らせ

	<p>リ・アップ “ひよも” 《2月のひよもの活動》 『食生活』の講話 日時：2月1日(水) 10:00～ 場所：大湫公民館 講堂</p>
	<p>大湫宿お休み処 12月～3月までお休みします。</p> 
	<p>ご招待券あります 1枚 (1枚2名まで入れます) 利用される方は公民館まで来てください。 企画展 大湫宿 森川家伝来の絵画 日時：1月21日(土)～2月19日(日) 場所：瑞浪市陶磁資料館</p>
	<p>オススメ!! 大湫分室の本 『ミスを最大のチャンスに変えるリカバリーの技術』 後田 良輔:著 明日香出版社:刊 約束の時間に遅れそう。 大事なデータを捨ててしまった。ピンチがやってきたときにどうするか。具体例付きで、アドバイスします。 12月の大湫分室 貸出人数：11人 貸出冊数：39冊</p>
	<p>デマンド交通 12月利用者(大湫～日吉東部) 24便 延べ33名(稼働率19.0%)</p> <div data-bbox="1077 1422 1396 1545" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>皆さん、たくさん 利用して下さい。</p> </div>
	<p>青色回転灯防犯パトロール 2月のパトロール予定者 上旬：小栗 和茂：植村 準 下旬：奥村 義二：棚橋 悟</p>

集まろう会

2月の活動はお休みします。



古民家カフェ橋

11月29日～3月上旬までお休みします。

区長日記

新しい年を迎えて早一か月が過ぎましたが、非常に寒い日が続いていますので、体調に気を付けてお過ごし下さい。

先日(13日)の大湫景観協議会の会議には多くの町民の皆さんが集まって頂き有難う御座いました。大湫宿の景観保全の為に景観計画重点区域指定に向けて皆さんと更に協議を重ねてまいります。

第三次観光景観林整備事業については1月末より作業に入りますが、大型の重機を使用する関係で大湫病院の西から足又公民館の辻の間が平日の数日間通行止め(迂回路が有ります)となり、皆様にご迷惑をお掛け致しますがご理解お願いします。(詳細は回覧板を見て下さい)

2月5日は4年に一度の瑞浪市市議会議員選挙の投票日です、暮らし易い瑞浪市・大湫町にする為に、棄権することなく投票に出向いて下さい。

加藤

1月4日 市議会議員立候補者検討会議(釜・大)

6日 定例区長会・幹事会

8日 西・北区どんど焼き準備

9日 消防出初式

11日 第一回選対会議

13日 第五回道の駅検討会議

大湫町景観協議会

15日 西・北区どんど焼き

19日 瑞高実践活動報告会

20日 臨時幹事会

21日 第一回選対全体会議

24日 第五回連合自治会

27日 第二回瑞浪市環境審議会

28日 小川県議県政報告会

第二回選対全体会議

29日 市議選出陣式

30日 青色回転灯防犯パトロール



節分は、2月3日金曜日です。

令和五年二月行事予定

日	曜日	予定
一	水	リ・アップひよも「食生活の講話」
二	金	定例区長・幹事会
三	土	丸森 お雛様フェア始まる
四	日	瑞浪市議会議員選挙投票日 足又初午祭
五	月	財産区全員会議
六	火	公民館講座「親子リトミック」 写真展『モニタリング調査』 5年間から28日まで
七	水	公民館・丸森運営会議
八	木	天皇誕生日
九	金	子ども会インリーダー会
十	土	建国記念日
十一	日	丸森 研修旅行（丸森休館日）

不燃ごみ：2/7(火)：資源ごみ：2/17(金)

企画展 大湫宿 森川家伝来の絵画

令和5年1月21日(土)⇒2月19日(日)

瑞浪市陶磁資料館

野村白寿坊 村瀬太乙
竹中海岳 小木曾文洲
渡辺原洲

開館時間/9時-17時【入館は16時30分まで】
休館日/毎週月曜日、1月31日(資料整理休館日)、2月14日
入館料/一般200円・高校生以下無料
主催/瑞浪市教育委員会
問合せ/瑞浪市陶磁資料館
〒509-6192 岐阜県瑞浪市明世町山内1-6
TEL.0572-67-2506

※新型コロナウイルス感染症状況により、公開や入館条件等を変更する場合があります。最新情報は瑞浪市陶磁資料館HPでご確認ください。

編集後記
今、瑞浪資料館の企画展「大湫宿森川家伝来の絵画」が行われています。どんな絵画が森川邸に伝わってきたのか興味があります。多くの人に見てもらい、大湫宿を知ってもらえるといいです。

編集発行：大湫町コミュニティ推進協議会 広報委員会
令和5年 2月1日 瑞浪市大湫町 422-1 TEL.0572(63)2360
<http://okute-shuku.jp>